

ワークショップ

いま、あらためて オリンピック を考える

4/29 (土)
14:30-17:45

14時開場、14時30分開始

場所：
一橋大学・東キャンパス
国際研究館 4 階大教室

事前申し込み不要
参加費無料

主催：
一橋大学大学院言語社会研究科
鶴飼哲ゼミナール

二〇二〇年東京オリンピックは

どんなイベント
どんな出来事として計画されているのか？

どんな期待が、このメガ・スペクタクルに
かけられているのか？

近代オリンピックは都市と国家の歴史に
どんな痕跡を刻んできたのか？

このハスポーツと平和の祭典は
現代資本主義とどんな関係を結んでいるのか？

オリンピックが触発するこれら無数の問いに、
批判的知性は、どのように応答するべきか？

第一部 (14:30-16:00)

「問われる東京／オリンピック」

1. 「東京オリンピックの共同性の幻想—
『希望への希望』の行き着く先」

阿部潔 (関西学院大学社会学部教授)

2. 「アスリートたちの反オリンピック」

山本敦久 (成城大学社会イノベーション学部准教授)

司会：鶴飼哲 (一橋大学大学院言語社会研究科教授)

大学までのご案内：

JR中央線国立駅南口下車、南へ徒歩約10分。国際研究館は東キャンパスにあります。詳細なアクセスについては下記のウェブページをご覧ください。

<http://gensha.hit-u.ac.jp/access.html>

お問い合わせ：鶴飼哲 (s.ukai@r.hit-u.ac.jp)

第二部 (16:15-17:45)

「『反東京オリンピック宣言』 (航思社、2016年)
著者たちとの対話」

1. 「『復興』五輪言説を問い直す」

山口溪 (一橋大学大学院・博士課程)

高原太一 (東京外国語大学大学院・博士課程)

小美濃彰 (東京外国語大学大学院・修士課程)

2. 「1964/2020 東京オリンピックをアートの視座から問う」

長チノリ (一橋大学大学院・博士課程満期終了)

井上絵美子 (一橋大学大学院・修士課程)

3. 応答

小笠原博毅 (神戸大学大学院国際文化学研究所教授)

塚原東吾 (神戸大学大学院国際文化学研究所教授)

友常勉 (東京外国語大学大学院国際日本学研究院教授)

* 終了後の18時頃より懇親会を一橋大学付近で行う予定です。懇親会についての詳細は当日お知らせいたします。